

2020年(令和2年)2月28日(金曜日)

**教えて！
ドクター
Q&A**
(株)宣通 (052)979-1600 広告

Q 50歳代の夫について
の相談です。5年

前に脳内出血を発症しま
した。幸い一命はとりと
めましたが、左手足に重
い麻痺が残りました。今
では日常生活は自立し、
家業の手伝いもできるよ
うになるまでに回復して
いますが、麻痺した左手
足が硬く屈曲するように
なり、姿勢も悪くなっ
ています。かかりつけの内
科の医師からは、後遺症
についてはあまり神経質
にならないようにと言わ
れていますが、このまま
様子をみていても大丈夫
でしょうか？

A 脳卒中後の片麻痺
は麻痺の程度が重
度であるほど、時間の経過
にともなって痙縮(けい
しゆく)が生じてきます。

放置した場合は関節の変
形も生じてきます。ご相
談の患者さんも左上下肢
に痙縮が生じていると考
えます。痙縮を予防する
ためには、継続的なりハ
ビリが必要ですが、それ
でも痙縮が生じた場合は
ボツリヌス治療を受ける
ことを勧めます。ボツリ
ヌス治療は、ボツリヌス
菌が作り出すボツリヌス
トキシンを有効成分とす
る薬を痙縮した筋肉内に
注射する方法です。効果
は即効性でリハビリテー
ションを併用することで
さらに有効性が高まりま
す。発症から時間が経過
していても医療保険の適
応がありますので、治療
経験のある医師に相談す
ることを勧めます。



院長 酒井 直人
(サカイ脳神経外科)

日本脳神経外科学会認定
専門医 浜松医科大学卒業 浜松
医科大学脳神経外科入局
浜松医療センター 聖隷浜
松病院、御前崎総合病院、成
浜松医科大学を経て、サカイ
28年浜松市中区に現職
脳神経外科開院 頭痛、めまい、物忘れの診療
に加えて、脳卒中後遺症、パ
ーキンソン病、難治性めまい
のリハビリテーションに取り組
んでいる